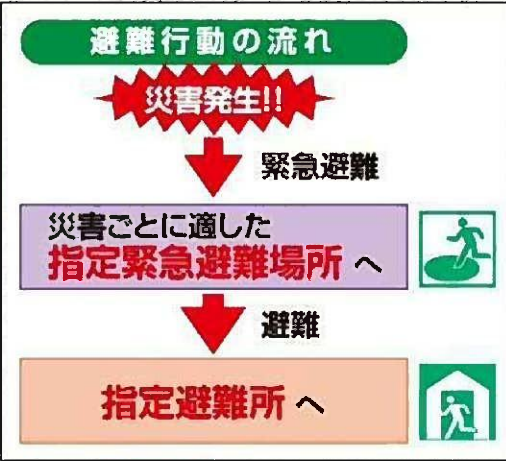
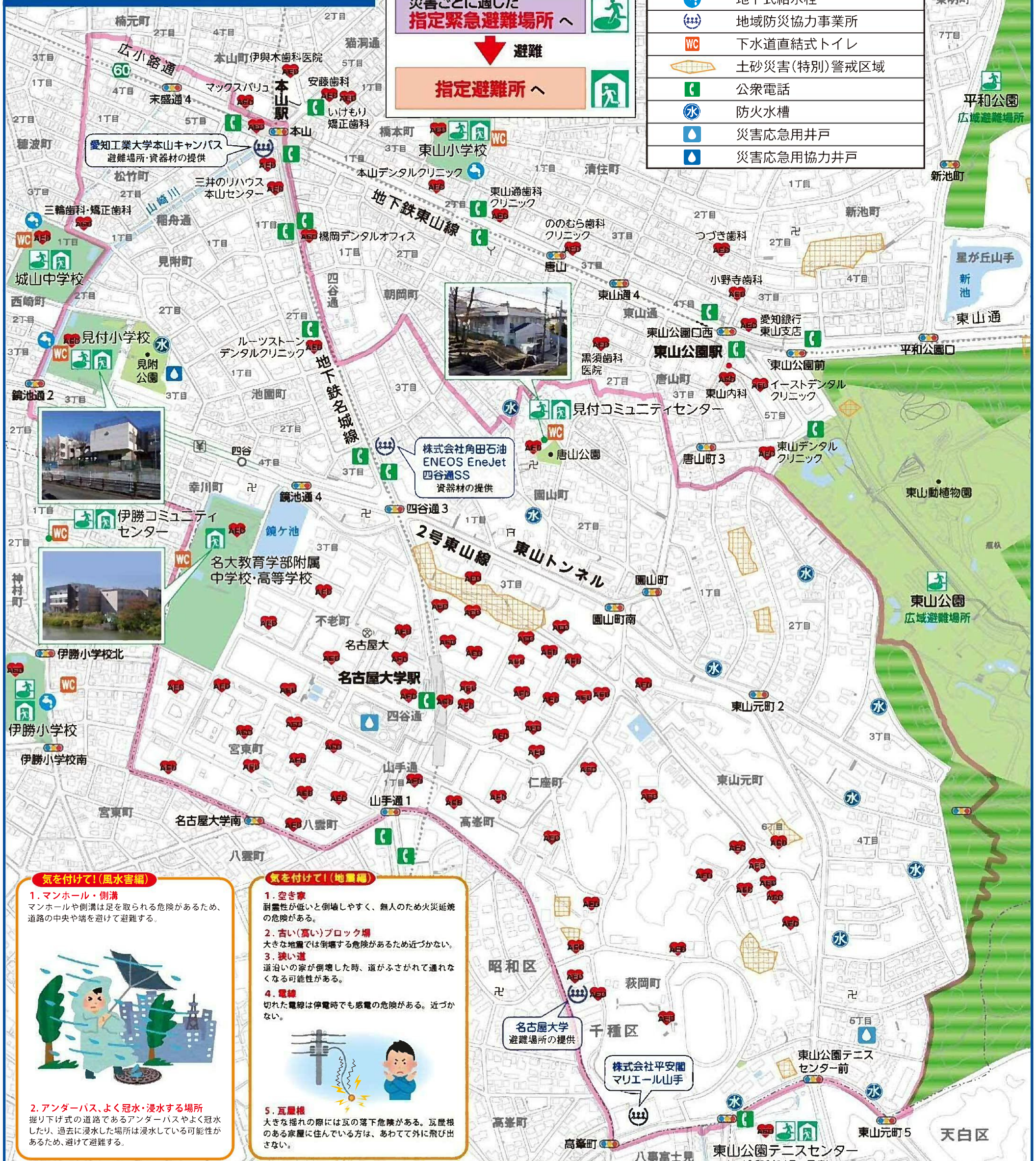


千種区見付学区

災害避難行動マップ



凡 例	
	AED設置場所
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	地下式給水栓
	地域防災協力事業所
	下水道直結式トイレ
	土砂災害(特別)警戒区域
	公衆電話
	防火水槽
	災害応急用井戸
	災害応急用協力井戸



気を付けて!(風水害編)

1. マンホール・側溝
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。

2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

気を付けて!(地震編)

1. 空き家
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。

2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるため近づかない。

3. 狭い道
道沿いの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。

4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。

5. 瓦屋根
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

わが家の指定緊急避難場所・指定避難所

施設名称	指定緊急避難場所				指定避難所
	洪水・内水はん濫	土砂災害	地震の揺れ	大規模な火事	
見付小学校	2階以上	○	グラウンド	×	○
名大教育学部附属中学校・高等学校	×	×	×	×	○
見付コミュニティセンター	○	○	×	×	○
東山公園	—	—	○	○	—



千種区 見付学区

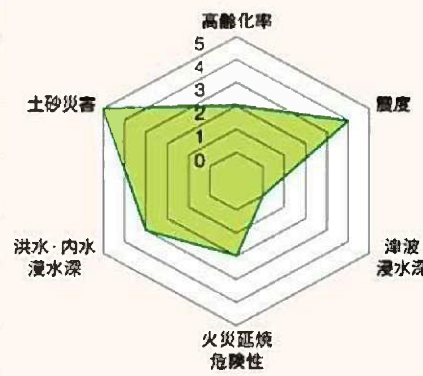
世帯：4,397 世帯 人口：8,098 人 面積：1.552 km² ※令和2年2月1日現在の世帯数と人口より

特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、まずは身を守りましょう。また、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出し、道を通ることができなくなることがあります。適切な避難先と、そこまでの安全な経路についてあらかじめ複数考えておきましょう。
見付学区は現行のハザードマップでは一部の地域で浸水想定が見られます。さらに、想定以上の降雨があった場合は範囲が広がる可能性があります。普段から台風情報や降雨などについて、情報収集の方法を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート（地域特性の把握）

	値	5段階
高齢化率	16.8%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100~500棟未満	2
洪水・内水浸水深	1.0m~2.0m未満	3
土砂災害	警戒区域に人家100件以上	5



このレーダーチャートは、市ウェブサイトに掲載されている「地区防災カルテ」における、見付学区のリスクを抜粋したものです。家族や町内会・自治会で防災について、話し合う際には「地区防災カルテ」をご活用ください。

名古屋市 地区防災カルテ 検索



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- ◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)
- ◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。



避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- ① ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!
- ② 「一緒に逃げよう」近所への声かけ!
- ③ 高齢者や障害者などの避難誘導!
- ④ 原則徒歩で!(渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)
- ⑤ がけ地や川の近くは避けて!

地震時の行動

揺れた!!

- 身の安全の確保
 - ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
 - ・安全に消せる場合は火を消す
 - ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意

揺れがおさまった!!

- ・火の元の確認、出火したら初期消火
- ・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- ・家族の安否・家屋の被害状況の確認
- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報入手
- ・非常持出品の準備

災害のおそれなくなった!!

- ◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!
- 避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

在宅避難

- 高齢者や障害者などの避難誘導を
- 食料・飲料・必需品を持って、原則、徒歩で避難

風水害時の行動

3日前

台風が発生した 情報収集

- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報入手

2日前

台風や大雨が来るぞ!! 準備

- ・避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- ・家族との連絡方法の確認
- ・家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け

1日前

雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- ・情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- ・50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- ・自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する

どれか一つ以上該当する

- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる
- 土砂災害警戒区域にいる
- 堤防の近くで、安全な建物にいない ※鉄筋コンクリート造

該当しない

自宅などにとどまる

避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始

- ・避難の事前準備をする心構えをするために発令するもの。高齢者や障害者が自主避難を開始する目安

警戒レベル4 避難勧告

- ・被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの

警戒レベル4 避難指示(緊急)

- ・被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

警戒レベル5 災害発生情報

- ・既に災害が発生している場合に発令するもの。命を守るために最善の行動をとる。

※気象庁が発する早期注意情報が警戒レベル1、注意報が警戒レベル2となります。

ただちに避難! (垂直避難)

- ・指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
- ・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害警戒区域では、特に危険性が高いため、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。

土砂災害警戒区域

土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で、都道府県と気象庁が合同で発表

土砂災害警戒判定メッシュ情報

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で1km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報(気象庁ホームページで確認できる)

土砂災害の主な前兆現象

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出してくるとき
- 水が濁ったり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき